



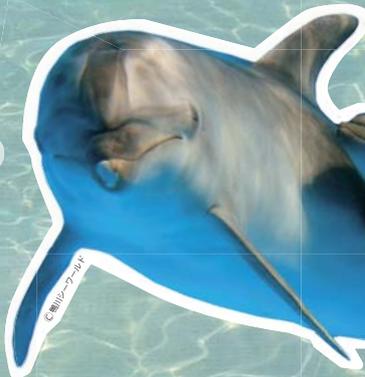
野生動物を展示する
動物園・水族館は必要？

動物園・水族館の
役目はなんだろう？

悩める

動物園

水族館



これからの動物園・水族館の
ありかたをみんなで
考えましょう！

2019
3/22
(金)

9:00 - 開場

事前申込不要
入場無料

会場
京都市国際交流会館
イベントホール
および特別会議室

詳細はこちら

動物園大学 水族館大学



主催 京都大学 野生動物研究センター

共催 京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 JSPS 研究拠点形成事業「大型動物研究を軸とする熱帯生多様性保全の国際拠点」
京都市動物園、名古屋市東山動植物園、(公財)横浜市緑の協会(よこはま動物園、野毛山動物園、金沢動物園)、熊本市動植物園、高知県立のいち動物公園、(公財)日本モンキーセンター、
わんぱくこうちアニマルランド、愛媛県立とべ動物園、広島市安佐動物公園
名古屋港水族館、京都水族館、海きらら・九十九島水族館、神戸市立須磨海浜水族園、海遊館、滋賀県立琵琶湖博物館、いおワールドかごしま水族館、沖縄美ら海水族館、鴨川シーワールド、
世界淡水魚園水族館アクア・トトギス

後援 京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、環境省近畿地方環境事務所、(公社)日本動物園水族館協会、共同利用・共同研究拠点事業「絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類)の保全に関する研究拠点」

2018年度 動物園水族館大学シンポジウム「悩める 動物園・水族館」

動物園や水族館は、日本人に野生動物に対する好奇心を喚起し続けてきた。現代人の自然観の醸成に大きな貢献を果たし、自然環境や野生動物の保全思想の基盤を作るためにそれなりの役割を果たしてきた。ところが最近、動物園・水族館の苦悩が膨らんでいる。動物に対する福祉の概念が広まるにつれて、野生動物を飼育するのはけしからん、飼うならもっと環境を整えろ、と動物園や水族館が一方向的に非難されることとなった。映像でみればいいという人もいるが、五感が刺激される動物の実体と映像の中の動物とは、まるで違う。野生動物の飼育を否定することで、人間は野生動物との接点まで失うことになるのではないかと。人がヒトらしく生きるために動物園も水族館も必要なのだ。では、どうすればいいのだろうか。

2019年 3/22 (金)

プログラム

9:00

開場

9:30 ~

開演 歓迎あいさつ：門川大作（京都市長）・開会あいさつ：幸島司郎（京都大学）

9:45 ~ 水族館・動物園：その社会における重要性の確認？

亀崎 直樹（岡山理科大学教授）

水族館・動物園は、多様な動物たちを観察できる施設である。ところが、動物たちの権利を考えると、これらの施設は不要だとする意見がある。動物園・水族館側からは、それに対抗する意見は出ていない。動物園・水族館は、動物の生体を人類に見せることによって、人類にその存在を認識させる役割がある。人類は目で見て理解した対象に対して、初めてその存在を認め、場合によっては愛情を持って接することができる。従って、野生動物の保護の思想は動物園や水族館から生まれるといっても過言ではない。動物を飼育し、人間にそれを見る機会を与えることは、文化の健全な発展に重要な行為なのである。ところが、個体の生活を重視する人々は、飼育動物はかわいそうだと主張する。確かに、環境の悪い場所で飼われている動物もいるが、飼育環境を整え、そのうえで健全な議論が必要である。ただ、それに政治、伝統、経済、人々の生活などが絡んで、話がややこしくなる。ここでは、複雑に絡み合った本件に関する議論を、整理してみたいと考えている。



亀崎 直樹

鹿児島大学水産学部卒業後、名古屋鉄道（株）入社。水族館建設・運営を手掛ける。その後、八重山諸島黒島でウミガメの研究を4年間行った後、京都大学大学院人間環境学研究所に入り博士。日本ウミガメ協議会会長、東京大学大学院客員教授、神戸市立須磨水族園園長を経て現職。

10:25 ~ 私たちは動物園のために何を残してきたのか

村田 浩一（よこはま動物園ズーラシア園長／日本大学教授）

毎年、某委員会に参加するためバリへ赴いているが、その度に植物園附属のメナジェリーへ行くのが習慣になっている。そこは、幕末に田中芳男が訪れた場所。彼は、動物園学園という存在を知り驚き感動して、後に日本初の動物園をつくるため奔走した。植物園内には、古生物学比較解剖学展示館もある。その展示標本を見ていると、300年以上にわたる動物学の歴史に目が眩んでしまう。ルイ14世時代からのメナジェリーで死亡した動物の全身骨格や臓器の標本が所狭しと並べられているからだ。日本に動物園が開設されてから、今年で138年が経つ。しかし、その間にどれだけの動物標本が残されてきたのだろうか？動物園動物の行動や遺伝子に関する研究は進んでいるが、動物たちの形を保存する努力は未だに片手間だ。彼らが生きた証を残すため、関係者はもっと真剣に取り組むべきだと思う。



村田 浩一

よこはま動物園ズーラシア園長／日本大学生物資源科学部特任教授。宮崎大学農学部獣医学科卒。1977年神戸市入庁。1978年より神戸市立王子動物園勤務。2011年7月、よこはま動物園ズーラシア園長就任。専門は野生動物医学、動物園学。OIE、IUCN、WAZA等の委員。

11:05 ~ これからの水族館について考える

勝俣 浩（鴨川シーワールド館長）

動物園・水族館は、動物を身近に感じることで命の尊さを認識し、その動物たちの生息環境保全にも関心を持つきっかけを提供してくれる。自然環境や生き物とのつながりが希薄になる一方の現代社会にあって、自然への入り口として動物園や水族館が果たす役割は益々重要である。しかしその役割を果たし続けるためには、生物をただ単に展示するだけでは足りない時代となった。動物福祉の考えに基づいた飼育展示物の生活の質を高めるための取り組みの推進、傷病動物の保護や希少野生動物の域内／外保全への協力、飼育動物に関する調査研究活動への取り組みを強化していくことが求められている。また、それら取り組みを発信し保護、保全の拠点としての動物園・水族館の役割についても認識を高めてもらうことで、極端な反飼育思想が誤った情報発信を通じて広がる前に、私たちへの強い支持を得ていかなければならない。



勝俣 浩

千葉県鴨川市出身。現職：鴨川シーワールド館長（2016年6月～）。1987年3月、（株）グランピスタホテル&リゾート（元、三井観光開発株式会社）入社。鴨川シーワールド配属。現在まで飼育部門で海獣類の飼育管理、展示に携わる。2008年から（公社）日本動物園水族館協会の教育普及委員会、生物多様性委員会の部員として協会の事業活動にも従事。2018年から水族館部長としてイルカ類に関する諸問題にも対応。

11:45 ~ 動物園・水族館の置かれた現状：欧米と日本の違いとこれからの課題

本田 公夫（Studio Manager, Wildlife Conservation Society）

ニューヨークのWCSの動物園では審美的にも教育効果やメッセージ性についても数多くの一級展示を作ってきた。その魅力は年を経ても褪せることがない。その背後には、野生動物とまったく縁のない生活を送る都市生活者が野生動物の命運を握るのが現代社会であり、動物園の価値は伝えるべきメッセージをいかに効果的に利用者に伝えるかで決まるという強固な理念がある。

欧米では少なくとも半世紀前から動物を飼育展示することへの批判的な意見が強く、野生動物の飼育展示に否定的な意見は年々強まっている。こうした選択圧にさらされて、欧米の動物園や水族館は現在の姿に進化して来た。日本ではほとんど知られておらず、同様の選択圧は日本ではほとんど皆無に近い。

具体的な事例やデータを使って欧米の状況を紹介し、保全心理学の知見などにも触れながら、これからの動物園の使命を考える。



本田 公夫

慶應義塾大学商学部卒。大日本印刷海外営業部、DNP(America), Inc.を経たのち、現在はWildlife Conservation Society 展示グラフィック部門スタジオマネージャー。2014年よりJAZAとWAZA間の通訳・意思疎通補佐。都立動物園再整備計画検討委員（2011-2016）。

Sarah Edmunds

昼食休憩

13:30 ~ 14:30 ポスター発表

14:30 ~ パネルディスカッション 進行：伊谷原一
「これからの動物園・水族館を考える」

16:50 閉会あいさつ：伊谷原一（京都大学）



お問い合わせ

E-mail

京都大学 野生動物研究センター zoouniversity@wrc.kyoto-u.ac.jp

アクセス

会場
京都市国際交流会館
イベントホール
および特別会議室

〒606-8536
京都府 京都市
左京区粟田口鳥居町 2-1



【電車】JR 京都駅→地下鉄烏丸線「御池駅」→地下鉄東西線「蹴上駅」→徒歩約6分